



学校だより 12月号

令和7年11月28日発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

「どう行動していくか」

校長 杉山 波也

木の葉がひらひらと落ちるようになり、朝には白い息がふわっと広がる季節になりました。落ち葉のじゅうたんを踏み踏みしながら歩いてくる子、「さむいー。」と言いながら背中を丸めて門に入ってくる子、帽子や手袋など完全防備をして登校してくる子など、いろんな子がいて、毎朝とてもほほえましく感じながら子どもたちを迎えています。



さて、11月は子どもたちと様々な場所へ出かけ、校外で学びを深める機会が続きました。1・2年生はズーラシアでたくさんの動物を近くで見学し、3年生は鴨志田中学校でのふれあいコンサートや青葉公会堂での児童音楽会に参加しました。4年生は足柄ふれあいの村で焼き板作りやウォークラリーなどを楽しみ、5年生は JICA 横浜で国際協力について学び、みなとみらいホールで心の教育ふれあいコンサートを鑑賞しました。どの学年も、日ごろの学校生活では得られない豊かな経験を重ねることができました。

引率しながら子どもたちの活動を見守っていて、とてもいいなと思ったことがあります。それは、どの学年の子たちも公共の場でのマナーを守り、いろんな人に対して思いやりの心をもちながら行動できていたことです。移動の際には、クラスやグループごとにまとまって歩き、周囲の方に迷惑にならないよう道の譲り方にも気を配る姿が見られました。見学や鑑賞の際や仲間が前で話しているときなどは、気持ちを切り替え、姿勢を整えて顔を上げて前を見ることができており、しっかり聞こう、学ぼうとする前向きな気持ちが伝わってきました。また、集合時間を自分たちで意識し、友達同士で声を掛け合いながら行動する姿も見られ、日頃の学校生活での積み重ねが活かされているなと思いました。電車の中では、一般の方が乗り降りするときに素早く道をあけるなど、状況をよく見ながら行動することができていました。座席についても、自分が座り続けてよい場面かどうか判断したり、自然に席を譲ったりする姿が多く見られ、相手の立場に立って考えることができていて素晴らしいなと思いました。

校外で活動することは、子どもたちにとって社会の一員として「どう行動していくか」ということを学ぶ大切な機会です。自然や公共の場、そこにいる方々・・・出あうすべてが学びの「材」となります。今回の学習で輝いた子どもたちの「よさ」を、これからの学校生活の中でも生かし、さらに伸ばして行ってほしいと思います。今後も、校外で学習する機会を大切に、子どもたち一人ひとりの成長につなげていきたいと思っています。

